



民有林の整備作業



盆堀川の景観整備作業

ぼんぼり山の会は、平成19年4月に発足し、東京府あきる野市盆堀地区で森林整備を中心に、地区の特産品である柚子の収穫の手伝い、盆堀川の景観整備にも取り組んでいるボランティア団体です。同会では、近年、林業の低迷やライフスタイルの変化などにより、管理が行き届かない森が増えつつある地域の民有林を、山主や地域住民の理解と協力を得ながら整備しています。



特産の柚子の収穫風景

「東の森・中の森」の整備

ぼんぼり山の会の活動フィールドである盆堀地区は、秋川の支流、盆堀川沿いにたえずむ里山の集落です。人家や畑にほど近い場所に、複数の山主さんが分かれて所有する人工林や雑木林があります。

楽しい気持ちで原動力

同会のモットーは「楽しいという気持ちでありたい」、「全員が主人公でありたい」というものです。森林ボランティアは決して楽な作業ではなく、また、同地区には柚子畑が多くありますが、高齢化の進展により、山林はもとより、畑にも十分な手入れがされていない状態でした。

そんな中、会の活動は地元自治会や山主さんの協力を得て「東の森」の整備からスタートし、「中の森」にまで広がりました。定例活動日に山林の間伐、除伐、そしてボサ刈りを行うとともに、柚子の木の間伐、そして剪定枝の処分などを継続して行い、荒れていた森も手入れの行き届いた健全な森へと姿を変えました。



安全補助道具「ヒッパレータ」の実験



柞の森の調査活動



炭焼き作業(東の森)



柞の森の道づくり

夏はもちろん冬でも汗びっしりになりませんが、仲間とともに汗を流す楽しさ、森の様子が変わっていく達成感、充実感を糧に、それぞれが自分の持つ知識や経験を発揮しながら、絶妙なチームワークで活動しています。

安全な活動のために

森林ボランティア活動を楽しく継続していくためには、

安全管理がとても大切です。そこで、自分たちの体験に基づいた安全管理の知識を同会のマスコットキャラクターのたぬきを時折登場させたイラストを使って、わかりやすく説明した「森林整備ボランティア活動のための安全読本」を作成しました。

それと並行して、森林整備の作業で最も危険なかり木の処理による事故を防止するため、伐った木をかかり木にしないよう、高所にロープやワイヤーを簡単に張れる安全補助道具「ヒッパレータ」を開発し、特許出願を予定しています。

50年前の里山復元へ

今年からは新しいフィールドとして「東の森」に隣接する「東の峰」の整備に着手しました。ここは中央の大きな雑木

林を囲むようにして人工林、竹林などがある地域です。とくに雑木林はクヌギやコナラなどをはじめとする多種の樹木が生育する素晴らしい落葉広葉樹の森です。そこには現在でも使える炭窯や炭窯跡もあり、かつて新炭林として利用されていた証がみられます。

同会は、この一帯を「柞ははの森」と名付けてかつての明るく

活力のあつた里山再生をめざし、整備に取り組んでいます。

また、整備の一環として「柞の森」の整備で伐採した広葉樹や竹を利用した炭焼きの取組も始まり、今年の春には初めて窯に火が入りました。

林床保護と作業現場へのアクセス整備として道づくりも行われ、それぞれのプロジェクトが有機的に一体化してパランスの良い森林整備に取り組んでいます。

ぼんぼり山の会

- 会員数 35人(平成22年9月現在)
- 森づくり活動フィールド 東京都あきる野市戸倉(盆堀)地区の民有林
- 活動日 第1土曜日・第3日曜日
- ホームページ <http://www.bonboriyama.org/index.html>